

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度第2回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和元年10月28日（月曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 4階 大ホール
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、池田浩委員、 桃生鎮雄委員、若槻司委員、宮下あさみ委員、加藤仁委員、 長谷川恭平委員、渡辺美子委員、榎園早苗委員、成田涼委員、 田邊香織委員、高橋美幸委員、横澤勝之委員、井口明彦委員、 河内沙苗委員、山岸麻美委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 政策企画課：林係長 生活支援課：柴野係長、石山係長 福祉課：仙海係長、斉藤係長 学務課：小林係長 学校教育課：斎藤係長 子ども家庭課：田中課長、五十嵐課長補佐、鷺頭係長、 小林主査 子ども家庭センター：若井係長 保育課：田辺課長、高杉係長、目黒係長、小野塚係長 青少年育成課：斎藤課長、大隅係長</p>
5 欠席者名	櫻井真理委員、赤川美穂委員、早川明日香委員、
6 議題	<p>(1) 基本的視点の修正案について</p> <p>(2) 教育・保育提供区域の設定について</p> <p>(3) 第2期計画の骨子案について</p> <p>(4) ワーキング部会の報告</p>
7 その他	アドバイザーからのまとめ

<p>8 会議結果の概要</p>	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1及び資料No.2に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1 に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3及び資料No.4に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>その他については下記内容のとおり</p>
<p>9 会議内容</p>	
<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ (事務局)</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1) 基本的視点の修正案について (事務局)</p> <p>下記資料について事務局が説明 資料No.1「第2期長岡市子育て・育ち“あい”プラン【計画骨子案】」(P23) 資料No.2「現行の「基本的視点」に対する子ども・子育て会議での意見まとめ (委員)</p> <p>非常に分厚い計画の中で、一番大事な基本理念のところになると思うので、少し確認させてもらいたい。一点目が、「次代の親づくり」の部分について、自己肯定感を高めるといのはすごくいいことだと思うが、これが子どもの自己肯定感を高められる親づくりなのか、親自身なのかというところが読み取れなかったため、誤解のないようにしていただきたいと思う。</p> <p>2点目は、(1) 番の子どもの最善の利益を第1に考える視点というところについて、いろいろな判断の中で、子どもの利益を一番に考えるということだと思うが、解説文を読むと、どちらかというとな誰1人取り残すことがないというような哲学だと思うので、この説明とタイトルがあってないのではないかというふうに思う。</p> <p>(事務局)</p> <p>まず自己肯定感のところについて、次代の親づくりということで今は子どもであるが、将来親になっていく中で、皆様からの意見もあったように、自己肯定感が非常に大事になってくるので、子どもの時代に自己肯定感を高めるといことで、大人になっときに今の子どもちが自己肯定感の高い大人になっていくようにという願</p>	

いを込めて、こちらに入れてある。

また、基本的視点の(1)番のところについて、タイトルと内容が合っていないという指摘について、もう1回内部で検討したいと思うが具体的な修正案があれば聞かせてほしい。

(委員)

どちらを取るかという話になるかと思うが、「子どもの利益を第一に」というところをそのまま尊重されるのであれば、解説内容が変わってくると思うし、解説内容の方をくみ取るのであれば、タイトルが誰1人取り残すことがないようにというような基本的な視点になるのかなと思うので、ご検討いただければと思う。

(事務局)

今のご意見を踏まえてまた検討させていただきたいと思う。

(事務局)

「子どもの最善の利益を第一に考える視点」というのは、これもここに書いてある通りで、親がどうだとかこうだとかではなく、どの子どもも尊重される。一人一人の子どもの利益が一番に考えられるんだよという意味をみんなで話したつもりではいる。ただ、それが伝わりにくいということであれば、今担当が申し上げたように、またわかりやすい表現にしたいと思う。

視点とその考え方は、そんなに乖離してるつもりではないが、でも他から見るとそう思われるということだと思うので、多くの市民が見るものであるため、わかりやすくしたいと思う。

(委員長)

基本的には「子どもの最善の利益」と表現しているので、あくまでも子どもを中心にとということであり、その中で親とか、或いは環境的なものとかそういうものすべての利益というふうに繋がるのかなと私は考えていたので、特にこの表現で問題はないと思うが、今ご意見があったので、ぜひご検討いただければと思う。

(委員)

例えば今話題になった基本的視点の(1)のところについて、私自身としてはこれで概ね通じているのではないかと思うが、もし通じないとすると、今まであった「すべての子どもの」という言葉が本文の方にあるが、タイトルの方に無いので、そこが少し引っかかってくる可能性はあるかと思う。

ただ、現実的に学校現場では、生まれ育った環境によって左右されるというのは非常に感じる部分もあるし、逆に、環境にかかわらず本当に一生懸命やっていて、明るく健やかに育っている子もいるので、本当に必要な人に必要な支援といったところがとても大事になってくるということを改めて感じている。

(2) 教育・保育提供区域の設定について

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.1「第2期長岡市子育て・育ち“あい”プラン【計画骨子案】」(P37,38)

(委員)

子育てコンシェルジュ事業とは何をされてるのか、内容を聞かせていただきたい。

(事務局)

子育てコンシェルジュ事業は、別名「子育て何でも相談」といい、各子育ての駅に1名ずつ配置しており、子育てに関する相談に対応したり、また場合によっては必要な支援につないだりするような業務を行っている。

(委員)

そうすると、子育てに関する様々な情報をそこに行けば全部理解できるという話でよろしいか。

(事務局)

そこですべてが解決するというわけではなく、必要な支援につなぐということが主な事業であり、簡単な相談のようであればそこでお答えして解決するという場合もあるが、今ほど申し上げた通り、専門機関につなぐということも多くある。

(委員)

ちなみに一番多い相談は何か。

(事務局)

やはり子育てに関する相談が多いが、例えば離乳食のことや、夜泣きのこと、また病気のことなどの相談が多くある。

(委員)

相談も様々あると思うが、例えば私共も今自分の園で、地域子育て支援拠点事業として長岡市から受託してやっているが、その中で保育園や幼稚園はどういうところなのかという質問を保護者から受けることがある。その為に、担当の先生方には、うちは幼稚園由来の認定こども園だが、きちんと保育園のことも理解してもらわなければならないということで、しっかり勉強するようにお願いしているが、私は今幼稚園協会の代表で来ているので、例えば幼稚園のことをどの程度コンシェルジュの方が知っているのかということをし少し心配に思っている。というのは、1度も協会の方や自分の園に何か問い合わせが来たこともないため、知らないから言ってないだけなのではないかというそんな疑心暗鬼もあり、せっかくいい制度なので、担当される方にはしっかり勉強していただきたいと思う。また、私立保育園や私立幼稚園のこともよくご理解していただき、窓口になってくれるぐらいの役割をしていただけると助かるなと思ひ少しご意見させていただいた。

(委員)

何人かのコンシェルジュの方とお会いしたことがあるが、最近の傾向として、多分てくてとかぐんぐんの方が特にそうだと思うが、入園前の園見学というのが非常に増えており、それは多分コンシェルジュの方からの御提案で皆さんそういうふうになされてるのではないかと私は思っているが、見学する中で自分たちにとって一番いい園をチョイスしていければというふうに思っている。また、私立保育園協会の

園では子育て支援センターを持ってる園がたくさんあるので、連携などもしていければと思っている。

(委員)

延長保育事業が4区域に分けられているが、4区域に分けることによって今後何か変わることはあるのか。

(事務局)

結論から申し上げて、何も変わることはない。4つの区域に分ける理由として、先ほど申したように区域ごとにどれぐらいの保育ニーズがあるのか、それに対して現状でそのニーズに対応できるのか、或いは、現状増加傾向にあるので何かしらの対応が必要なのかといったことを、区域ごとに検討するという意味合いで4つの区域に分けた。ただ、4つの区域の中でしか入園できないということだけでなく、当然その区域を跨って利用することも可能であるため、この4つの区域に分けることによって、お子さんをお預けしてる親御さんに何か変更の手間が生じるとかということは一切ない。

(事務局)

課長が申し上げた通りだが、第2期計画において教育・保育に関する区域を4つに設定した。長岡市は非常に地域が広く、皆さんご存知の通り全体としては子どもの数が減ってるわけだが、いろいろな土地開発等が進むと、新しい住宅が建ち、そこでは、近いところの保育園幼稚園のどこにも入れないような状況が生じるが、この計画で区域が一つだと、国からしてみると、長岡市は栃尾とか山古志に保育園が空いていると言われると、近くに行く保育園がなくて困っている人のために保育園を増やすとか新しい保育園幼稚園を作ることができなくなるので、どちらかという、そういった理由で区域分けをしたいと考えている。区域を分けたからといってこの区域を越えてはいけないというわけではない。

もう一方では、いろいろ議論があるが、子どもの数が非常に少なくなってきた地域については、もしかしたら統合したりしていくようなことも、我々としては考えていかなければならないという意味での区域設定であり、従って課長が申し上げた通り保育園の区域を4つにしたので、その保育園でやっている延長保育についても4区域に分けるといような形になっている。

(委員)

1点質問だが、ファミリー・サポート・センター事業で、小学生対象と書いてあるが、ファミリー・サポート・センターは小学生以下のお子さんは利用できないのか。

(事務局)

こちらに「ファミリー・サポート・センター（小学生対象）」となっているが、ファミリー・サポート・センターでももちろん未就学児も小学生も利用できる。ただ、長岡市のこの計画では「一時預かり事業」の中に未就学児の量の見込み及び確保方策が入っているので分けてある。

(3) 第2期計画の骨子案について

下記資料について事務局が説明

資料No.1「第2期長岡市子育て・育ち“あい”プラン【計画骨子案】」

(委員)

第2部で次世代育成支援にかかる施策の展開はこれからということだが、今本当に予算の編成時期で大変な中で、無償化の関係で、来年度から市の負担も大分あると思う。それも含め、市の負担を捻出するために、今まで行われていた様々な子育て支援の事業展開が財政面で縮小されるといったことはないように、くれぐれもお願いしたい。

(委員長)

職場関係のいろいろな問題が計画案にも出ていたと思うが、そのあたりは今、企業の中での変革というものがあるか。

(委員)

働き方応援プラス事業として、今の働き方改革の中でのワーク・ライフ・バランスの推進ということで、各企業の方に様々なセミナーなどの施策が展開されている。前回の会議の時も話をさせていただいたが、今回の調査の中でも、本市が望む中身の中に働きやすい職場づくりと子育てしやすい職場作りといった意見が一番多かったと思うので、引き続きそういった事業展開をしながら、また企業の皆さんからのご協力もいただきながら、私ども労働団体としても働きやすい＝子育てしやすい職場づくりを市の皆さんと進めていきたいと思うので、またいろいろ協力し合っていきたいと考えている。

(委員)

我々としては働き方を一斉に変えていくということは特にしないが、大きな枠組みの中でSDGsというものを今やっており、その中に働き方というものがあるので、この辺りSDGs全体を通じていい社会を実現していこうという中で、働き方改革等今進めていこうと考えてるところである。

(委員)

子育てしやすい職場づくりというのを考えると、仕事復帰するにあたって、子どもが風邪を引いたら大変とか仕事を休みづらいという話をよく聞くので、会社の方としても急に休まれたら困ることはあると思うし、その辺のバランスが難しいと思う。ただ、子どもの体調が悪い時に、休んであげなよと言ってくれる会社が増えてくれたらお母さんたちも安心してもっと仕事ができるのではないかなと思うので、難しいかもしれないが、その辺をもう少し会社の方でも考えていただけたらと普段から思っている。

(委員長)

子育てのいろいろな事業があるが、その内容について助産師会としての何か取り組みとか、感じたことはないか。

(委員)

よく助産師同士の話の中で、産後うつとか育児ストレスが高いお母さんが最近増えてきたという話が非常に多く、ケアを充実させていかないといけないと思うところはある。でも長岡市の方はかなり一生懸命その辺の家庭支援をしてもらってると思うので、助産師会も一緒に協力してやっていけたらいいのではないかと考えている。

計画案に関しても、個人的には、長岡市の方でもう精一杯やってくれていると思うので、この案でとりあえずやっていけたらいいのではないかと思う。

(委員)

自分自身、来月2歳になる子どもを育てていて思うのが、先ほど言われた産後うつの話で、基本的に私はとても外交的でいろいろな人と話をしたりするので、子育て中もそんなに何も変わらないと思っていたが、実際子どもを育てていると自分の家にこもることも多く、わからないこともたくさんあり、赤ちゃんを見ていてどうしたらいいんだろうと思うことが沢山あるんだなということがわかった。子どもと関わる機会はあるけれど、小さい赤ちゃんと関わる機会が本当にないまま親になったため、余計に不安がたくさんになるのではないかと思ったので、小さい赤ちゃんと関わったり、赤ちゃんについてもっと知る機会があればいいと思った。

もちろん訪問にも来ていただいたが、やはり不安がなかなか取れなかったため、妊娠期間中に赤ちゃんと接する機会があればいいのにと考えた。妊娠している間は結構時間があるので、自分の時間に使ったほうがいいのかというお母さんが多いが、自分の時間も大事だが、ほかの赤ちゃんたちと触れ合って学べる機会があったら、不安も少なくなったのではないかと思うので、そういう機会が妊娠期間中にあったらいいと思う。

(委員)

長岡に来る前に他の県で働いたこともあり、そこでは赤ちゃんを連れてきてくれているお母さんがいて、妊娠中の方が赤ちゃんを抱っこしたりとかそういう機会があったのを今思い出したが、産後の悩みでは母乳の悩みが非常に多く、長岡はお産が総合病院でしかできないので、お産が忙しくておっぱいのケアをそこまでしてくれていないという印象が強い。訪問に行くときの方が困っているため、本当は妊娠中に母乳の話をできたら、きっとお母さんたちも赤ちゃんが産まれた後にスムーズに授乳ができるかなと思うので、パパママサークルでお風呂入れはやっていてと思うが、希望者の方には妊娠中から母乳の話をする機会ができたらいいと思う。

(委員)

実際にいろいろな子育ての機会が長岡市にはたくさんあり、私は母子保健推進員として赤ちゃん訪問や妊婦訪問をさせていただいたり、或いはままりラやままのまカフェなど、いろいろなところに携わらせていただいているが、生活実態調査の結果を見たところ、参加率は高いが経済的に厳しい家庭の方が、事業を知ってるが出て

こられない、参加できていないということがわかり、とてもショックを受け、私たちはこれから何をしたらいいのかなというのをとても感じた。本当にいろいろな手だてはあるが、それをやはり幅広い方たちに利用していただいたり、或いは前回のワークショップでも言われたように、こちらから積極的にそれをアウトリーチしていくことがいかに必要かということを感じた。

(4) ワーキング部会の報告

下記資料について事務局が説明

資料No.3「令和元年度長岡市保幼小連携ワーキング部会 報告」

資料No.4「令和元年度小学生の放課後の居場所ワーキング部会 報告」

(委員)

両方のワーキング部会について1つずつ質問させていただきたい。

まず保幼小連携ワーキング部会について、保護者の参加がないようだが、保護者の視点というのはここには入れないものなのかということと、支援が必要なお子さんだと、「すこやかファイル」という保育園を卒園して小学校に入学するにあたり、子どもの生い立ちとか特性などをまとめるファイルがあり、学校に上がってもずっと先生方に使っていただきながら広げていこうということでやっていたているが、そのようなものを健常のお子さんでももう少し簡素化したものでもいいと思うが、連携ツールとしてあると保護者も同じ話を何回もしなくても済むし、言い忘れたということがなくなるので、あると便利かなと思ったのが1点。

もう1点、小学生の放課後の居場所ワーキングについて、近年本当に公園で遊んでいるお子さんも少なくなったりとか、公園にいてもゲームをしている様子が見えて、いろいろ思うところはあるが、放課後児童クラブの方で多様なお子さんがいるので厚生員さんの研修というお話があったが、クラブには多分グリーゼンのお子さん等も含まれるかと思うので、ぜひ放課後発達支援コーディネーターの方との連携も含めて対応いただけると、スムーズになると思うのでぜひよろしく願いしたい。

(事務局)

まず、保幼小連携の部会に保護者の方から入っていただくかどうかということで検討したが、やはりまず保育園現場と学校現場との意識の差、乖離といったところが一番問題なのではないかというふうに考え、今回については両当事者に特化した内容にしようということで、学校関係者と保育園関係者で構成したという経緯がある。

もう1点、すこやかファイルについて、まさにすこやかファイル担当の子ども家庭課の係長もメンバーに入っており、また学校の方からもそういった面で担当されている方からも入っていただいているので、そういったお子さんについての情報共有に向けた連携といったところも話し合われており、できるだけ取り組みにつなげていきたいと考えている。

(事務局)

小学生の放課後の居場所ワーキングについて、支援の必要なお子さんへの対応ということだが、厚生員全体研修で発達に支援が必要なお子さんに対する研修を取り上げる場合もあり、委員からお話があった放課後発達支援コーディネーターが、児童クラブを訪問し、このお子さんの場合はこういった支援の仕方がいいのではないかという個別の相談にも対応しているので、本当にお子さん一人一人について必要な支援がやはり違うということだと思うので、個別にきめ細かくご相談に乗りながら対応して参りたいと考えている。

(委員長)

何かそういう放課後の支援施設みたいなものを持ってらっしゃるところもあるようだが、そのあたりはどうか。

(委員)

私どもの団体を立ち上げたのがそもそも放課後の障害児の行き場がないというところからの話しからだったが、今は放課後等デイサービスというものが長岡市内でも増えてきており、本当に支援の必要なお子さんについてはそちらでお預かりできることも多い。ただ、地域差がかなりあり、長岡のまちなかに結構集中しているため、寺泊、与板、中之島など遠くの方々は本当に行き場がなくて困ってらっしゃる方も多いために、その辺の支援は児童館とか他のところで受け入れていただくしかない現状だが、そこもぜひ配慮いただければと思う。

(委員)

私は主任児童委員をしているが、主任児童委員の一番の核の仕事は地域の中での子育てに関する関係機関との連携ということを中心に心がけており、小中学校との連携、顔の見える関係を作りたいということで、日々活動している。保育園幼稚園というところの連携がかなり地域差があり、特に長岡市立の保育園だと、割とスムーズに受け入れてもらってはいるが、私立の保育園幼稚園のところだと地域によっては受け入れてもらってるところもあるが、なかなか関係を持ってないというところがあり、どうしたらいいんだろうと委員同士の話で時々話題にあがっている。ぜひ私立保育園協会の集まりがあった時には、地域に必ず主任児童委員がいるので利用してくださいと、あとご挨拶に伺ったときには快く受け取っていただきたいということをお願いしていただければと思う。

また、今月末で一斉に民生委員、主任児童委員の改選になり、12月1日からまた新しい委員が決まり活動して、それぞれまたご挨拶に行きたいと思うので、ぜひよろしくお願ひしたいと思う。

小中学校の連携について、これも地域によってはどこまで情報を出してくれるかというのは学校によって違うことと、あとはまた管理職の校長先生や教頭先生が代わるとまた対応が違ってくるというところもあり、そこは日々悩みながら活動しているところである。

(委員)

保幼小の連携ワーキングの方で、学校の先生と保育園、幼稚園の先生方と一緒に部会を開いていただいているのはすごくいいことだと思うが、やはり保護者の意見というのも大事だなと思ったので、これから検討するのであればぜひ保護者の参加も検討していただきたいと思う。

小学校の放課後の居場所ワーキング部会の方も参加させていただいたが、とても貴重な意見を自分の中に取り入れられた。自分が今小学校でボランティアで放課後子ども教室に参加させてもらっているが、自分のところだけの情報しか入ってこないもので、こういったワーキング部会というのが非常に大切だなと感じたし、自分のところの会議の方でもこういった意見をもっと取り入れていきたいというものがあつたので、これで終わりじゃなく、続けてやっていただきたいと思った。

(委員)

計画の骨子案は全体に非常によくまとまっているが、基本視点の見直しということで、2番の次代の親づくりという視点で、私ども長岡市子ども連絡協議会の対象は小学校4～6年とジュニアリーダー育成ということで中学生、高校生を対象に、将来に向けてコミュニケーション能力をつけるとか、いろいろな体験を通して豊かな心が育っていくというような基本的理念でやっているが、将来大学に行ったりするとやめてしまう。そのような中で、将来親として、今の体験が生かせるような部分も少し将来的に取り入れてもいいのかなと、それも大事な我々の活動の範囲なのかなということを感じた。

それともう1点は、今年子ども食堂への補助金の予算がついたということで、私は非常に賛成してるが、その補助金を消化するぐらいの団体ができたのか。

(事務局)

子ども食堂は、今年度の予算として、各団体に5万円ずつ10団体分ということで予算をつけさせていただき、今のところ6団体から交付申請がきている。あと実際に活動されてる団体が7団体であつこれからオープンするということからもお話があり、おそらく今年度中に10か所ぐらいになるのではないかと考えている。

(委員)

それに絡んで、前回の会議の時に、先ほど委員長の方から、いろいろな活動をして手を差し伸べるが、なかなか一番手を繋ぎたいところには伝わらないというようなお話があつたが、私も前回の会議の時にワーキングをやつた際、いろいろな人が子ども食堂に来る中で、本当に手を差し伸べなきゃいけないような子供たちをどうするかという話をしたら、主任児童員に子ども食堂に入ってもらい、そこである程度できる部分を救えればというような話を確か市の方がされていた気がするが、私もいろいろな会議に出させてもらっている中で、本当に手を差し伸べなければならない人に対してどういう方法がいいのかというのがどうしても見えてこないというのが、最も大きな部分だと思うので、今後その辺を引っ張り上げるようなところに力を入れて進んでやっていただければいいのかなということをお願いしたい。

(委員)

私自身この小学生の放課後の居場所ワーキング部会というのが非常に実情が整理できて、参加していいことだなと思った。私が児童館に携わって数年経つが、最初の頃は自分の子どもを育てた経験から児童を見ていたが、やはり時代とともに変わってきており、今回第2期の計画を見ると、1期の計画を網羅した中で、また次の時代ということでうまくまとめられてるなどと思った。

特に思っているのが、児童館でやっている中で、親の教育についてきちっとここで網羅されてるが、やはり子どもそのものがそれぞれの家庭の中から受ける影響というのが素直に出ているので、その辺は親の方にもよくお話してコミュニケーションを取ったりしているが、親からしてみれば自分の子どもがちょっとおかしいと思ったときに、愛情が足りないのかなというようなこと言っている。先生とお話したときは、先生方は実際学校ではそういうことはないよという言い方をされてくる。特に保護者と話した時に私どもがある程度アドバイスできるような指針がこの計画とかいろいろ皆さんから教わった内容でできるのかなと思っている。

また、保幼小連携について、これは非常に私も大切なことだなと思っており、最近小学校に上がってくるときに保育園の先生とお話するようにしており、小学校に上がったときに、1年生の担任とお話するようにしている。というのは、9歳頃までが非常に大切であると思っており、保育園がもっとしっかりやってくれないから、ちょっと外れた子が出るのではないかと思ったりもした時期もあったが、幼稚園の先生と話してみると実際そうではなく、小人数の子供たちを相手に、一人一人の個性を掴んで一生懸命やられているので、それを一方的に私が解釈するのはおかしいことだなと思い、自分なりの対応をしてきた。

これから少し心配なのが、学校の働き方改革であり、先生が非常に忙しいと言われてる中で、放課後の児童に対して、私たちの児童館、児童クラブの役割が期待され過ぎても困るなどと思っている。その辺りを市の方でよく考えていただき、また仕組みを考えてもらいたいと思っている。

(委員)

私の職場の市民協働センターは、相談窓口ということで様々な相談が寄せられるが、この施策体系の中で、包括的な支援体制の構築というあたりが大事かなと私たちのやっている中でも考えている。関連分野の連携体制の強化のところの、この関連分野はどれくらいの関連分野を想定しなきゃいけないのかなと、これからいろいろと市民レベルでも活躍してらっしゃる団体さんもいらっしゃる中で、どれだけその情報が得られるかということが大切かなと思っている。

私たちのところでも、直に相談に来てくださるからわかるが、今まで20年も摂食障害の子供たちの支援をしていたという団体があり、それが私達にとって本当にわからなかったことで、来てくださったからやっとわかったというあたりで、その団体は、表に出たことによってもものすごい反響がありいろいろと相談があったとおっしゃっていた。ということは、潜在的にいろいろな人がその摂食障害について本当に困っていらっしゃったんだということがまた浮き彫りになってきたというあた

りで、関連分野といろいろな分野があると思うので、その辺を本当に強化していただきたいと思うし、そのルートをいろいろと探っていただきたいと思う。

やっぱり地域に子どもたちが帰るので、地域におけるその子どもたちのありようというのを、地域の中でもいろいろなことをやってらっしゃる方、これから高齢化社会で、地域にまだまだ力がある方々がたくさんいらっしゃると思うので、そのあたりを掘り起こして連携をしていく、高齢者も居場所とやりがいを作るという辺りをみんなで考えていかなければいけないというふうに感じた。計画案はとてもよくまとまってると思う。

(委員)

いつもこの子ども・子育て会議に参加させていただき、本当に親目線で、やはり子どもの最善の利益というところで、自分自身も勉強させてもらいながら参加させてもらっている。本日ちょうど小学校が土曜日行事があり代休だったので、午前中にコミセンのお祭りのボランティアに関わらせてもらい、それからこちらの会議に参加させてもらったが、そういった地域のコミセンの方々がすごく頑張ってる場所に知らせてもらえることもとてもありがたいと感じており、あとは私もボランティアとして参加させてもらうことで、本当に子どもたちとの関係づくりというところを学ばせてもらってる。そういった子どもたちとの、まずは触れ合いとか関係づくりというところがすごく貴重だと思っており、先ほども話にでていた妊娠期から赤ちゃんに触れ合える経験ができるかというところがとても貴重なのではないかなと思う。

私は「長岡にこっとクラブ」というサークルで活動しているが、他にも「&mamaつなぎ」という団体にも所属しており、そちらの方でもいろいろと情報発信をしたり情報収集をしたりという活動をさせてもらっている。そういう中で、いろいろな専門家の方に出会ったり、こういった方がいるんだということを情報収集できたりしているということが、自分たちのスキルアップに繋がっているのかなというところで、親力の向上も感じている。なので、こういった会議で学んだことも活動の中で還元できるように考えながら、またこのプランもそういった団体の皆さんに共有させてもらいたいと思っている。

(委員)

私自身小国に住んでおり、まさに少子高齢化の極みのところなので、一番最初にあった、長岡市を4区域に分けるところについては、私は子育ての駅ぐんぐんで働いているので、一番下の子を長岡の駅前の保育園に預けていたこともあり、今年度からはうちのそばの小国地域の公立保育園の方でお世話になっているが、小国だと親世帯との同居が多いので延長早朝保育の利用が少なく、私のように朝7時半から夕方6時半ぎりぎりまで預ける人とで差がある。

でも私のように預けたりしている家庭は非常に少数で、土曜保育もうちはよく使うが他はあまりいなかったりして、そのニーズのところ、長岡のまちなかではたくさんいるからニーズがあると言われるが、小国地域だったり他の小さな地域の中で

は何人もいないからニーズはないというようなことだと不安だが、大丈夫だろうと思いながら今日聞かせてもらった。

また小学生の放課後の居場所ワーキングの方へ今回参加させていただいて、今うちには2年生と4年生と5年生がいるので、まさに全部の学年に対して関係するところを、いろいろお話させてもらった。うちの子たちは児童クラブに行かないで家にいることを選び、昔の昭和の時代のように、隣の神社で遊んだり、お友達の家を歩き来して放課後を過ごしているが、本人たちなりに考えて決めた放課後のあり方についても、児童クラブありきとか放課後は大人の言った場所で大人の思った通りに過ごすのではなくて、子どもたちなりに考えた場所で過ごしていく子もいるということも、親子ともに考えた結果であるということも、伝えられたらいいなと思いながらワーキング部会に参加させていただいた。その中で、1週間が習い事で毎日回っているお子さんだったりとか、大人にここにいなさいと言われたからみたいな子が多いのではないかとというのも何となく放課後一緒に遊んだりしていて感じていて、それについて何歳まで思い通りにしていったらいいんだろうねというような意見をその中で出させてもらったが、子どもが子どもらしく育っていけるように、そのためのお手伝いを大人がしているだけという視点があったら、この先も子どもたちが伸びやかに育っていけるのではないかと考えている。

また、最初の方で、保育園のことについて、子育てコンシェルジュのことでお話が出たが、私たちも聞きながらすごく責任を感じており、入園についての相談は今1日の中でほぼ大半を占めており、その中でお母さんたちは私たちスタッフに対して、「どこがいい園だと思いますか」と率直に聞いてこられる。でも私たちも自分の主観を伝えるわけにはいかないので、お母さんの心で決めたところが一番いい園ではないでしょうかとお伝えさせていただいており、保育園の見学についても、一度見に行ってみるといいよとお話させてもらっている。今お母さん達は保活ということで一生懸命やられているが、もっと緩やかな保育園入園についてのお話ができたらなと思っている。

(委員)

先週、保育園の出前講座に行き、若いお母さん方の反応を直に拝見してきたが、やはり子どもとのコミュニケーションのとり方がわからないという方が圧倒的に多く、暴力をしたいわけじゃないのに、もどかしくて何回言ったらわかるのと言ってつい手が出てしまうということがすごく多いとのことだった。

私どもの代表がファシリテーターで行き話をしてきたが、子供の脳の発達であるとか、親が的確な指示を与えないから子どもが理解ができずに何回も同じこと繰り返すとか、そういう一つ一つお話をしていくと、とてもお母さん方はわかってくださり、最後のアンケートに「目からうろこです」とか、「すごくよくわかりました、今日帰ってからすぐ実践してみます」とか、そういう方が非常に多いので、手をあげたくてあげている親とか、怒鳴りたくて怒鳴っている親というのは少ないのではないかと思う。救えると言うとおこがましいかもしれないが、ストンと落ちること

ができれば、重症化をしないで済むのではないかととても感じている。

明日もこちらでコミュニケーション講座をやるが、やはりコミュニケーションのとり方が、今若い親御さんたちはどうしたらいいかわからないという方が多いような気がする。それはやはりこちらにいらっしゃる人生経験豊かな方が、事あるごとにいろいろなお話をまず聞いてあげて、そして小さいことでも共感してあげるということがすごく大事なんじゃないかなというふうに思っている。

それから先ほどからの計画案の中で、連携ということがたくさんいたるところに出てくると思う。やはり連携はとても大事なことであり、その部署その部署で幾ら一生懸命やっても、やはり繋がらなければ何にもならないと思うので、是非ともこの連携ということをみんなで共有していけたらというふうに思った。

そしてもう一つ、委員長からお話があったが、声を出せない方、そういう方の対応の仕方をやはり真剣に考えないといけないと思う。幼児の健診等にも出てこない親御さんもいらっしゃると伺ったし、そういう方の方がむしろ、直接命に関わるような問題を抱えているのではないかなというふうに日頃から思っているので、ぜひそれは行政の方もそういう方をどうやったら救えるかということを考えていただきたいと思った。

4 その他

(アドバイザーからのまとめ)

皆さんからの貴重なご意見を聞きながら、幾つか気になったところについてお話させていただきたいと思う。

まず1点目、一番最初に意見が出ていた、基本理念の子どもの最善の利益を第一に考える視点というのは、これは入れていただいて本当にありがたいと思ったが、前提として、子どもの最善の利益は理念でもあり方法でもあり、その大前提として、子供の権利条約というのがまずあり、そこで示されている子どもの4つの権利、生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利、この4つの子どもの権利を守るために、子どもにとって必要なことは何かということが一番最初に考えてやっていきましょうというのが、ここで示されている内容のはずである為、その点からちょっと検討していただけるとありがたいかなというふうに思って聞かせていただいた。この内容は間違っていないが、本来であればすべての子どもたちに、4つの権利が守られるべきなんだということから、この計画の理念というのが明らかになることを期待したいと思う。

2点目、これは私の意見なのでご検討いただければと思うが、「次代の親づくり」について、気持ちはすごくよくわかるが、親になるために子どもがあるのではなく、子ども期が保証されることによって親になるという流れを作っていただきたい。子どもの時期にきちんと子どもとしていろんなものが経験できて、先ほどワーキングの方で出してくださっていた、こういう子どもに育てて欲しいというのがあったが、それらが子どもに保証されることが、結果として、大人になった時

に、今の中学生とかでも子どもがいる家庭が想像できる、そこにつなげていくことができるというプロセスであって欲しいなというふうに思っている。

余談になるが、私の知り合いで、お子さんが関東圏の私立中学校に通っている子がおり、その子にある日相談されて、周りの友達がみんな将来子どもを産みたくないと言っている、どうしてそういうことを言うのかわからないと言われ、これはゆゆしき事態だなと思った。中学生の子どもたちが、自分は子どもを持つ親になりたくないとはっきり言い出してる地域だったり場所が生じてきていると。

いやそんなことない、親はみんなあなたたちがいて嬉しいんだよっていうことを私はその子に伝えて、よかったと言ってくれたが、すごく衝撃だった。でもやはりこういう子がこれから増えてくるのではないかと思い、少しそれは心配をしている。長岡市さんではそれが起きないことを心から願い、今余談的にお話をさせていただいたが、そういう声が出てきているのも事実としてあるということも、やはり考えていかなければいけないかなというふうに思う。

その次に、教育保育の提供区域について4つに分けられるということを先ほど部長さんの方からこういう趣旨ですということをお聞きいただき、安心したところである。保育ニーズが生じているところについてはしっかりと対応していただけるような仕組み、そして、長岡市さんだけではなく、新潟県全体、多分地方はどこでもそうだと思うが、子どもの減少が進む中で、保育の場で子どもの育ちをどう保障していくかということが非常に難しくなっている。なので、その中で、子どもにとって必要なことという観点からどう保育の場を保障していくかということは、考えていかなければいけない時代になつて来ているというふうに思っている。

その次に、先ほど委員からも話があったが、連携という言葉がたくさん使っておられて、それは私もぜひ連携していただきたいと思うが、この言葉が何を意味するのかということ具体的などころまで落とし込んでやっていただきたい。連携しましたという聞こえがいいし、何かやった感じがするのでよく使うが、例えば連携一つとっても、それこそ担当課が違えば連携がイメージすることも違うかもしれない。だから、そこまできちんとすり合わせていただかないと、どうしても言葉だけが宙に浮いてしまうというのがあるので、その連携されるメンバーの方たちが何をどこまでやれば、私たちは連携しているというふうに言えるのかということ、ちゃんと落とし込む形でやっていただけるとありがたいと思う。

あともう一つ計画のところでは、企業をどう位置づけるのか。今まで、これらの第1期もそうなんです、企業さんをお願いしているのは、どちらかというと働き方のところが中心だったかと思うが、これから子どもを育てる環境を作っていくときに、地域の一つの担い手として企業さんをどう位置付けていくのかがやはり課題になってくると思う。なので、そのあたりをどう位置づけるのかということも検討していただければと思う。

あと、小学生の居場所のワーキングの方で、先ほど聞いたらせっかく子ども食堂が増えてるのに入っていないというのが少し残念でしたので、子ども食堂というふうな

言い方がいいのか、例えば学習支援の場も含めての、いわゆる子どもの居場所というところも入っているといいかなと思いつつ見させていただいた。

その中でもう一つ、本当に必要な人が来てるのかという議論がいろいろなところであるが、必ず行かなくてはならない場所じゃないところに人が来ていることがどういう意味なのかということを考えていただきたい。

保育園や幼稚園は親に連れられて必ず来るし、学校は義務教育だから必ず行く。そして、そうではない場所に来ている人たちがいるということは、そこに来たいから来てる人たちがいるということである。それはもしかしたら大人側がイメージしてる人とは違うかもしれないが、ここに居場所があったら私は来たい僕は来たいという子どもたちがいる、そしてそれは大人から強制されたものでもなく、自分たちの思いで来ているということをもまず第一にさせていただきたいなというふうに思う。それは子育て支援のいろいろな場所についても思うが、やはり来たいと思わなければ来ないので、その場所に来ている人たちがいるということをお大切にいただきたい。

そして、先ほど本当に深刻な人という話が出ていたが、湯浅誠さんが講演の中でお話をされた中で、イエロー信号とレッド信号の子がいるという話で、レッド信号の子はもう地域では無理なので行政がやってくださいとおっしゃっていた。でもイエロー信号の子は意外と地域でできることがあったりするもので、そこできちんとサポートしていくことで、レッド信号の子を減らしていくというのが大事なのではないかというふうに言っていた。この辺りは、やはりそれぞれの強みを生かした役割分担というのも、非常に大事になってくるのかなというふうに思っている。

5. 閉会

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員

⑨

10. 会議資料 別添のとおり